

17. UWEPEKER (5)

ISKAR UN MENOKO ANE HÍNE ÁNAN

平村つる 1959年4月5日録音

みちかいやつ言うど、簡単な。簡単すぎて、iyomonmomo しないでゆうの。これさ、ゆうから。

Iskar un menoko ane híne ánan hike nipeskep'an wa harkika akar wa tonon or un ase kor amam arera wa, ae kor ne ene iki wa an menoko ane hi ka aerámpewtek no, ohasir ta, sintoko ne ya, (coyp) coypep usa ikor, cise kirittek onne cise or ta yayramsikarun pe ane wa orano, nipeskep'an wa harkika-karan wa aeyyok tonon or un ase kor, usa tonon e aep pirka aep atasáre wa ae kor ánan pe ne a p, sine an to ta,

“(nipeskean k . . .) nipeskep'an kus poysu hem, aep ase rewsiekimnean yak poronno ase wa ”

sekor yaynuan kusu, rewsiekimnean híne, auníhi toop kattuyman arpaan híne, rewsian kusu ne uskehe ta, ni kitay, pon su hem pirkep hem akosína.

“ onuman ne oro ta rewsian kusu ”

sekor yaynuan kusu, kaykumataan híne, aari hem ki híne oraun, nipeskep'an a an a.

15 “ sirkunne yakun kapu akep, ánepítta kapu akep wa nisatta ase wa iwakan ”

sekor yaynuan kusu, orano akoárikiki no akep ayne tane sittokes akusu, néa rewsian kunak aramú uskehe ta, paskur, inne paskur uwekarpa híne orano, néa akor pirkep tokpa wa carpacarpa.

20 (a) onuman ae kus ne p opítta acarpa p ne siri iki.

orano císan kor sirawekoykian, niesisuyean kor sirawekoykian yakka

17. 民 話 (5)

私は石狩に住む女です (和人の夫をもった石狩の女の話)

短いを話すよ、簡単な。簡単すぎて、こまごまと詳しいことは言わないで話すの。これ(マイク)に向かって話すから。

私は石狩に住む女です。シナの木の皮を剥いで縄をなつて、和人のところへ背負って行っては、米と交換して来て、それを食べていました。どうしてこのようにひとりでいたのかわかりませんが、気がついたら、私は、だれもない家に、行器や宝器や宝刀が、家いっぱいにある、古い家にいたのです。私はシナの木の皮を剥いで、縄をなつて、売ります。和人のところへ背負って行きますと、いろいろな、和人が食べる食べ物、上等な食べ物と交換して、それを食べながら暮らしていました。ところが、ある日、

「シナの木の皮を剥ぎに、小鍋や食べ物を背負って、泊まりがけで山へ行ったら、たくさんシナの木の皮を背負って来られるから」
と思いましたが、泊まりがけで山へ行きました。そして私の家からずっと離れて行って、泊まろうと思うところに、木のこずえに小さな鍋も、白米も結びつけました。

「晩にそこに泊まりましょう」
と思いましたが、柴木を集めて、置いて、それからシナの木の皮を一生懸命剥ぎました。

「日が暮れたら(木から剥ぎ取った)皮を(外皮と内皮に)剥ぎ(分け)、一晩中皮を剥いで、明日背負って帰りましょう」
と思いましたが、それから精を出して(木から皮を)剥ぎ続けて、もう日暮れになりました。すると、あの、私が泊まろうと思っていた場所に、カラス、沢山のカラスが集まって、そして、あの私の白米をつついて、ばらばらに散らかしています。

晩に私が食べようと思っていたものが、全部散らかされている有様でした。それから私は泣きながら大声でどなりつけました。棒を振り回しながら大声

eun po, inne paskur uwekarpa wa orano, néa poyso ka atursere wa perke, néa pirkep ka acarpacarpa.

“ tane síronúman pe híta ae? mak ikian kor rewsian kusu ene siriki hi an? ”

5 sekor yaynuan.

iruskaan kor ránan ruwe ne akusu, néa pon su ka ramne wa an pirkep ka ramne, paskur sinep ka an okake ka isam.

ohainkar'an ruwe ne aan.

10 orowaun, ne uske ta rewsian ka sitoma kusu, néa uske oyakkehe ta siruwantean akusu, siritkomewke, poro ruwe cikuni hamkuru cikuni an hike, ne hamkuru cikuni kitaykehe ta, rewsian yak síno pirka noyne (si) siruwantean akus síran hi kusu, orano néa hamkur cikuni sakhorak hamkuru cikuni ne kusu hamuhu ka sat ni ka sat wa an pe ne hike orano atuyé a atuyé a híne, nis or eus kane poro ape aari híne, oraun 15 néa akor nipes ase a ase a híne, sama esikte híne ora easir sukean híne ae.

híne orano suy (nipeske u . . .) kapuhu akar kor ánan ruwe ne akusu, néa, oro ta nipeskep'an uskehe ta, nociw néno an pe tup uhewe uhewe kane, (**X**: あー, おっかぬえ) siri anukár.

20 kimunpe (sik) sirkunne wa anukár kor ene ne p ne yak aye a p, nociw tup uhewe uhewe pekor, anukár siri anakne, hotasnuan hi kusu orano, néa nipes kap poronno toypuhu an pe ne hike, néa, enuntekape kasi un aosúrpa tek akusu, sir'uskosanu.

hi kusu, néa aari ape sama ta ekayni, an pe ne hike, amip use aanú 25 tek híne, néa amip amire, aynu a ru néno kane aanú híne oraun, sirkunne rápok earmour takup ami kane híne, hoyupuan híne, (i) akor Iskar anak pon uske ta anak nay pakno an oraun, poro kor anakne to néno kane an, poro pet ne p ne a p, (nay s . . .) pet sat híne nay néno kane an rápok ne hike, petkasuan híne, okusne wa yánan ruwe ne.

30 tane arhucuk méan rápok ne p ne kusu, amipa p rupus rupus kane,

で叱りつけても、なおいっそう沢山のカラスが集まってきます。そして、あの小鍋も落とされてこわれ、あの白米も散らかされてしまいました。

「もう晩になったのに、何を食べましょう？ これでは、どうして一晩をすごしたらいいのかしら？」

と思いました。

腹立たしく思いながら山を下って行きましたところ、その小さい鍋も傷まないでそのままあって、白米もそのまま、カラスも1羽もいた形跡がありません。

まぼろしを見たのでした。

それから、その場所に泊まるのも恐ろしいので、その場所からほかのところに適当な場所をさがしましたところ、根こそぎ倒れている、大きな太い木、葉がいっぱいついた木がありましたが、その葉がいっぱいついた木のこずえのところに泊まったら、実にいいあんばいらしく、その辺を歩き回りますと、そうした様子ですから、それから、その葉のいっぱいついた木は、夏に倒れた、葉のいっぱいついた木ですから、葉も乾き、木も乾いていたのを、私は木を切って切って、天をこがすような大きな火をたいて、それからさっきの私のシナの木の皮を背負ってはどンドン運んで来て、火のそばにいっぱい積んで、それから炊事をして食べました。

そしてそれからまた、皮をむいていましたところ、さっきの、シナの木の皮を剥いでいた場所に、星のようなものがふたつ、交互に上がったり下がったりしているのが見えました。

熊を、暗いとき見ると、こんなふうなのだと言っていたが、星がふたつ、交互に上がったり下がったりしているように見えるのは、覚悟をきめなければならぬほど危険なことなので、それから、そのシナの木の皮の、かすの部分の皮がたくさん山になるくらいあったのですが、その大きく燃えている火の上にその皮をぱっと投げますと、火がスッと消えました。

ですから、そのたいた火のそばに折れ木があるのですが、私は着物をサッと脱いで、その折れ木にその着物を着せ、人が座ったようにして置いて、それから暗いうちに、ただ下着1枚だけ着て、走って、石狩川は水が少ない時は沢ぐらいで、水が多くなると沼のような大きな川になるのですが、その時は川が水がなくなって沢のようになっていた時でしたが、私は川を歩いて渡って、向こう岸へ上がったのでした。

もう秋口で、寒い時期ですから、着ている物がバリバリ凍って、下着1枚し

earmour takup ami híne ánantom ta, auní un hosipian ka sitoma p ne kusu, oro un harkika eyyok'an tono cise or un, pásan kane terkean kane, hawsikurkaottean kor arpaan híne, yayasuranian akusu, tono utar iyamkir pe ne kusu, uhopunpare,

5 “ mak eyki hawean? ”

sekor haweoka hike,

“ tapne kane ne wa kiraan ruwe ne na ”

sekor itakan akusu, nérok tono utar, uhayokkoturpa, *teppo* kor utar uwekarpa.

10 híne,

“ nani tane sittumupekere kane sirpeketterean na ”

sekor haweoka kor tane sirtumupekere kane kor, auní un (pap) aturápa híne, auní un payean ruwe, iyos ek pe ne aan híne, néa cise kiritek kane an a sintoko ka akorótotpa su ka akorótoto, aehótkehi citarpe ani akar
15 pe ne a nérok citarpe utar ka tup ne rep ne atuypatuypa, auníhi ne a p anak acarpacarpa, asitóma no sirkaran ruwe anu¹⁾ orano oro ta, poro paraparak'an kor, císan akusu, tono utar ene haweoka hi,

“ (e) eunihi anak (is . . . cot) oro ta ean somo ki yakka, auní soyke ta cise akar wa pirka eyorot eki kus ne a(y)eipere kus ne na iteki
20 cis ”

sekor tu pirka kuni p re pirka kuni p iyepakasnupa.

orowaun, oro ta kimatek'an, nipeskep'an uske un suy ituraan híne arpaan akusu, néa ekayni aehúsi wa ahoppa a amipa p apetpapetpa, néa akor ape ka acarpacarpa híne ora kimosma okake an.

25 orano néa auní ta ona ka akor unu ka akor wa kus tasi sinritcise, pirka cise tomo (aoyaysikarun) aeyáysikarun awa,

“ ene sinrit kor pe aperpa ruwe an hi an ”

sekor yaynuan orano, paraparak'an akusu, akor tono utar tu pirka kuni p re pirka kuni p iyepakasnu.

30 “ tono kotan ta eyorot yakka pirka iyorot eki kuni, eype easkay

1) anukár «見た」と言うつもりだったかもしれない。

か着ないで、夜中に家に帰るのも恐ろしいものですから、それから、縄を買ってもらっている和人の家へ、一目散に走って、オーイ、オーイと叫びながら行きました。そして訴えますと、和人たちは私を知っているものですから、起き出して、

「いったいどうしたのかい？」

と言いましたが、

「こういうわけで逃げてきました」

と話しますと、その和人たちは武装し、鉄砲を持った人々が集まりました。

そして、

「じきにもう夜が明けて、明るくなるのを待つから」

とみんなは言いました。夜が明けると、私はみんなと一緒に、私の家へ行きました。みると私のあとから来たらしく、その家いっぱいにあった行器も粉々にこわされて、鍋も粉々にこわされており、私の寝床はござで作ったものですが、そのござもふたつにもみつつにもちぎれて、私の家だったものは、ばらばらに散らかされ、恐ろしい光景になっていることを聞いて、私は、その場で、大声でわあわあ泣いていますと、和人たちがこう言いました、

「あなたの家は、そこにあなたが住まなくても、私たちの家のそばに、家を作ってあげるから、仲良く一緒に暮らそう。食べ物も食べさせてあげるから、泣くのをやめなさい」

と、よいことをふたつもみつつも言ってなだめてくれました。

それから、私が恐ろしい思いをした、シナの木の皮を剥いでいた場所に、またみんなに伴われて行きますと、あの折れ木にかぶせて、置いていった私の着物がビリビリに裂かれ、あの、私がたいた火も散らかされ、それから、山へ逃げていった跡がありました。

それからその私の家に、私の父も母もいたからこそ、先祖の家、立派な家の中で、私はものごころついたのですが、

「こんなふうに先祖の持ち物がこわされてしまったんだわ」

と思って、わあわあ泣いていますと、和人方がよいことをふたつもみつつも言ってなだめてくれました。

「和人の村に入っても、あなたがみんなと仲良く幸せに暮らせるように、

kuni aki kusu ne na ”
sekor, aiyé kor tono cise or un aiturá híne, kurmat mi amip kurmat mi
pirka kut ne yakka aiyekútkore.

pirka pon cise akar tono soy ta ki híne, oro ta ánan.

5 “ te wano anakne harkika somo ekar yakka, kim péka somo eyki
yakka eype easkay kuni akar na ”

sekor ne kor, pirka pon tono hoku aikoré híne, tono hoku akor wa, tono
cise soy ta ánan wa, tono akopókor pe ne kus pirka pon sísam néno
kane oka, po anuwékoan ruwe ne korka, aynu menoko ane wa iyorot’an
10 tono kotan ta iyorot’an ruwe ne kusu, apoutari¹⁾ situmkanere, amatne-
poutari situmkanere yak

“ aynu sani ene na ”

sekor cipiyeppor ecikí na, iteki situmkanere no oripak iyorot yan.

sekor síno katkemat hawean.

1) apoutar と聞こえる。apoutari の語尾の i が落ちている。

あなたが食べていけるようにしてあげるから」

と私に言いながら、和人の家へ私を連れて行って、和人の女が着る着物、和人の女がつける美しい帯も、私につけさせてくれました。

きれいな小さい家を和人の家の前に作ってもらって、そこに私は住みました。

「これからは、縄をなわなくても、山歩きをしなくても食べられるようにしてあげるから」

と言われて、すてきな若い和人の夫を与えられ、和人の夫を持って、和人の家の前に住んで、和人と間に子供ができたのですから、美しい和人の子供のような子供がたくさんできましたけれど、私はアイヌの女で、あとから入った、和人の村に、入れてもらったのですから、私の息子たちがでしゃばったり、私の娘たちがでしゃばったりすると、

「お前はアイヌの子だぞ」

と悪口を言われるから、決してでしゃばらないでつつしみ深くおつき合いなさい。

と立派な奥様が言いました。